

ふるさと農園

5月の農園
夏野菜の植え付け・成長期

5月は春野菜の収穫時と夏野菜の植え付け成長期で、日に日に変わって行きます。



玉ねぎは日に大きくなり収穫です。エンドウや大豆は

中の豆がはじけるのではなにかと思う程太っています。ナス、シトウ、スイカ、カボチャ等の植え付けが忙しい時期です。S・O

会員便り

芥川の北部は新旧の歴史の宝庫

塚脇や西之川原は肩を張らずに当たり前のように歴史と自然が調和しています。

川原の東側は一面に畑地が広がって、今農家の方は田植えと夏野菜の準備に大忙し。畦の草刈り、畦作り、溝掃除、苗養生・・・。農業小屋の陰に帽子のような鉄釜。昔寒天釜として活躍した代物。

冬の気配が感じられると風物詩のように但馬から酒の仕込みを終えた杜氏が移動してきて、寒天作りの板田が田んぼに広がったものでした。この地の糸寒天は上質で京都の和菓子屋に出荷されたそうです。



今では輸入品が多くなったこと、気温が高くなっ

た事、但馬から来ていた人達も世代交代したから寒天産業がこの地域から姿を消したと聞いています。最近榎田で復活したとか、伝統ある産業が続く事を願います。



家庭菜園をしていても1m先にジョウウビタキの子どもが近寄ってきます。大鷲、小鷲、かるがも、小鴨、鶺鴒、けり・・・仲良く住み分けています。戦国時代芥川を見降ろせる山頂に三好長慶が城を構えていたもつと以前から村人が脈々と歴史を刻んできたのでしょうか。今もたゆまぬ努力が続いています。S・U

鳥羽その一 真珠の輝きを世界に

鳥羽に十数年ぶりに行きました。

どなたも一度は訪れたであろう所、斜陽の行楽地と家族に不評をかうかなとヒヤヒヤしながら、企画しましたが、盛り沢山の観光スポットがあり好

評でホッとしました。3月下旬、例年より寒く、風も強く近鉄の駅を降りた時、遊覧船もイルカ島に寄れないとのこと、先ずは御木本記念館に行きました。

これが意外！映像やパネルや実験体験などが取り入れられて、子供達は結構印象に残った様です。アクセサリーから芸術作品まで盛り上げた創始者の御木本幸吉の生涯をか

けての探究心と資材とつぎ込んだからこそ、この分野で日本を近代文明国の仲間入り出来たと大人も再認識しました。幸吉は鳥羽街道脇のうどん屋「阿波幸」の長男として、安政5年（一八五八）に生れ、家業を継ぐと共にあこや貝に核を植えつける実験を妻と内海の相島（おじま）で続け、遂に明治26年、世界で初めて半円真珠の養殖に成功したそうです。

味でした。泊りはちよつと古いホテルですがプライベートのアスレチックと海岸があつてこれが子供達にとつて一番のイベントだったかもしれません。

鳥羽その二 生き物全てスターです。

遊覧船で内海を廻ってイルカ島に上陸しました。アシカ・いるか・オットセイのショーを見て、イルカにも触れることができました。

この冬の寒さに体調を壊し、抗生物質を投与されて頑張っているそうです。時々トレーナーのお姉さんに駄々をこねている時もありました。この日の海は穏やかでしたが、3月11日には海面が60センチ上がったとか。

船を降りて鳥羽水族館へ。規模と展示、ショーは日本一との事。30年以上飼育されていたジンベイザメ、じゅんいち、君が今年2月に亡くなりました。フィリピンからやつてきて長い間ごころうさま！生れ故郷に帰りました。水族館の中でもいろんな



セイウちゃんありがとうございます

ショーがありました。とりわけおもしろかったのはセイウチのショーでした。2、3トンの巨体をくねらせてえさをおねだりしたり、歯磨をしたり、鼻から轟音を出して挨拶、いろんな芸をして最後には観客席を一回りして愛嬌を振りまいていました。鳥インフルエンザ対策で、3月末までペンギンの散歩がなかったのは残念。ペンギンが鳥類だったと忘れていました。水族館の生き物全て役割を果たしてスターとして私達を楽しませてくれます。皆様も昔行つたところに再度訪れると必ず再発見があります。S・U